2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 18 日

所属	基盤教育機構	職名	助教	氏 名	長岡篤
研究課題	脱炭素社会に向けた持続可能な都市開発のあり方				
研究キーワード	都市開発、超高層建築物、再生可能エネルギー、環境アセスメント	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連する SDGs項目	11. 住み続けられるまちづくりを	7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに	4. 質の高い教育をみんなに	該当なし	

１．研究成果の概要

昨年度に引き続き東京都の超高層建築物を伴う都市開発に焦点をあて、都市開発関連制度の適用状況、立地、規模、用途及び、開発前後の土地利用の変化と周辺市街地の状況を GIS データから把握した。また、超高層建築物の解体及び建替状況の把握を行った。その結果、超高層建築物は特に 2000 年以降は都市再生特別措置法など様々な都市開発制度の適用による容積率の緩和により増加していることが明らかとなった。建物の用途は、事務所を中心とした単一の用途ではなく、住宅やホテル、商業施設など多様な用途が混在した開発が多くなっている傾向があった。一方、超高層建築物の解体は都心部で 2000 年以降に始まっており、建替までの年数は竣工後から平均約 36 年、1 件以外はより大幅な規制緩和による大規模化・高層化し、多くが複合用途となっていた。環境関連制度として環境アセスメント制度を取り上げ、特に神宮外苑再開発に関する論点を整理するため、日本不動産学会全国大会（熊本学園大学：2023 年 11 月開催）で、ワークショップ「脱炭素社会を見据えた都市開発のあり方－神宮外苑再開発を踏まえて－」を企画し、コーディネーターを務めた。このワークショップでは、都市計画に関係する制度や環境アセスメント制度、行政手続きの課題が明らかとなり、都市開発に対する示唆を得た。

２．著書・論文・学会発表等

【論文（査読あり）】

・本間花乃子、錦澤滋雄、長岡篤、村山武彦（2024）「大学における環境アセスメント教育の実態と課題」、環境アセスメント学会誌 22（1）、p. 56-62

【学会発表等】

・長岡篤（2023）「都市開発関連制度の適用からみる東京都における超高層建築物の開発」、2023 年度日本建築学会大会、p.215-216

３．主な経費

・地理情報の分析のため、ArcGIS を購入した。

・研究室で使用する文房具類を購入した。

・京都大学で 2023 年 9 月に開催された日本建築学会大会の参加費・論文発表費として使用した。

４．その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

【その他の助成金】

一般財団法人住総研 2023 年度研究助成　テーマ「遠郊外の住宅団地における多様な活動による再生可能性」

【その他の活動】

・日本建築学会関東支部都市計画専門研究委員会委員、同委員会の活動として講演会の企画・開催、委員会活動の書籍化の準備を進めた。

・日本不動産学会全国大会（2023 年 11 月 10-11 日、場所：熊本学園大学及びオンライン開催）において、ワークショップ「脱炭素社会を見据えた都市開発のあり方ー神宮外苑再開発を踏まえてー」を企画し、コーディネーターを務めた。

（本文は 2 ページ以内にまとめること）